

サクラはまた 今年も咲いた

小川 清

公益社団法人日本診療放射線技師会 副会長



サクラが散ってサクラまた咲いて、散っていった。子供のころ、一年があんなに長く感じられたのはなぜだろう。「子供時代は全てが新鮮だったから」という意見もあるが、ここ数年、多くの経験をしている筆者でも時間がたつのは恐ろしく早い。時間を早く、あるいは遅く感じることは、経験論だけではない数々の要因があり、明快な答えがあるわけではないが、新しいことに挑戦すると濃い時間を過ごすことができることは確かだ。

今春も約2,000人の診療放射線技師が誕生し、皆さまの勤務先へ就職して業務を開始した。ぜひとも患者さんにやさしく、医療に貢献する診療放射線技師を育ててほしい。日本診療放射線技師会は、職能団体として都道府県診療放射線技師会と連携し、生涯教育システムを通じて診療放射線技師の資質向上に尽力してきた。ぜひとも皆さまにおかれては新規採用者に入会を促し、またこの連携をご利用いただき、診療放射線技師を大きく育ててほしい。

日本経済新聞に、本年度の新入社員の特徴タイプが「自動ブレーキ型」と名付けられ公表された。今年のタイプは「ネットなどでの情報収集能力にたけ、頭の回転が速い。高感度センサーで障害物を敏感に察知し、事故を未然に回避する自動ブレーキをほうふつさせる」。その反面「人を傷つけない安心感があるが、どこか馬力不足」と指摘し、分析の背景として「情報収集を徹底的に行い、危ない企業を避ける意図がある」と解説している。この報道から見れば、新規採用者は医療人として安心して業務に配置できると判断してよいと思うが、皆が安心できるわけではない。事故を起こしやすい人は言うまでもなく、ミスが多い人、エラーを犯しやすい人であり、確かにいる。例えば交通事故を反復する者の特徴は「情緒不安定」「自己中心性」「衝動的」に加えて、責任を他に帰属する傾向が強いそうだ。また医療事故に関する記事では、全国の医療機関から報告された医療事故報告数が3,000件を超えたと紹介している。1施設当たりの事故件数に大きな増減はなく、報告義務のある大学病院だけではなく任意で報告制度に参加する医療機関が約2.4倍に増えていると報じている。これを受けて「自動ブレーキ型」新人類の安全な医療の遂行に期待したい。

仕事の評価は速さと正確性で決まる。誰でも急いで仕事をすれば不正確となり失敗も増え、丁寧に取り組めば遅くなる。これはトレードオフの関係である。世に鉄道ファンは多いが、鉄道運転士になるためには「反応速度検査」を受けて合格しなければならないそうだ。反応速度検査には作業性・識別性・注意配分・機敏性・多重選択反応・割り込み抑制などがあり、合格基準は反応の早さと正確さの両方から決められている。われわれの世界でも仕事を評価する「ものさし」を用意して評価し、足りない人には研修を求め、それでも到達できない人はその業務から外すなどの判断を、リーダーの主観的な判定ではなく論理的・客観的な評価基準が求められる。人は年齢を重ね成長すると同時に退歩する部分もあり、適材適所という良い言葉があるが運用上は簡単ではない。医療の中で進歩著しい放射線技術分野だからこそ、命を預かる医療人だからこそ、業務評価法を作り上げたい。平成26年度は、前倒しに実施してきた業務拡大に関する講習会も、ようやく日の目を見ることができそうだ。

来年、また美しいサクラを咲かせるためにも一日一日の研鑽を個人だけではなく、組織として、チームとして続けなければならない。日本中の診療放射線技師が一段階段を上がり日本の医療に貢献し、診療放射線技師が今まで以上に医療に加わることで日本の医療をより良くしていきたい。